十字路

日本再生へ今こそ金融システム改革

日本は過去30年の低迷でグローバルプレゼンスは大きく低下し、ファンダメンタルズも悪化した。主因は危機感の欠如、過去の成功体験のレガシー化、デジタル化の遅れ、人口減少やダイバーシティー推進の遅れだ。財政政策、金融政策もそれを増幅した。

その間、日本の銀行の衰退も著しく、1990年代は不良債権問題への対応・処理に追われた。世界ではデジタル化の急速な進展などにより、米テック大手「GAFAM」の勃興や金融ビジネスモデルの革新など大きな潮流変化が起こったが、日本の銀行は、期待される使命・役割を十分に果たせなかった。地域金融機関には、地方の疲弊で存立基盤が揺らぐところも出てきている。

銀行に期待されているのは、日本再生に不可欠なイノベーションを支え、新陳代謝を促すリスクマネーを潤沢に供給することであり、家計の安定的・効果的な資産形成の促進に寄与することである。加えて、産業空洞化と少子高齢化で疲弊する地方の創生に向けた取り組みである。さらに、労働生産性を向上させるデジタル立国推進への積極的な対応である。

今こそ日本再生のため金融システム改革を検討・実行する時期ではなかろうか。ユニバーサルバンクの解禁、資産運用業やファンド事業の抜本的強化、銀行が非金融業で負うリスクが預金業務に及ぶことを防ぐ「リングフェンス」の導入と銀行業務のコアバンク化、銀行から商業への参入は認められないが商業から銀行への参入は認められる一方通行の規制の是正……。議論すべき改革テーマはいくつもあるだろう。

もちろん、制度改革だけでは不十分だ。改革とあわせ、個別銀行の経営戦略や新たな企業文化の構築が重要になるのは言うまでもない。

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング　主席研究員　廉　了）

掲載日 2024年12月06日 日本経済新聞　夕刊 005ページ © 日本経済新聞社 無断複製転載を禁止します。